白馬岳頂上･風景指示盤保全プロジェクト

～ 85年にわたり登山者を迎えてきた白馬岳のシンボルを未来へ継承 ～





左：白馬岳山頂　風景指示盤
右；白馬岳と白馬山荘

プロジェクトの背景

標高2,932m。
白馬岳山頂に立つ風景指示盤は、昭和16年の設置以来、85年にわたり登山者を迎え続けてきました。
山頂から望む北アルプスの山々を示すこの指示盤は、単なる案内施設ではありません。
「白馬岳に登った証」として、多くの登山者の記憶に残る存在です。
また、新田次郎の名作『強力伝』にも登場し、日本の山岳文学を語る上でも欠かすことのできない文化資産です。
白馬地域では近年4つの氷河が確認され、国内外から多くの登山者や研究者が訪れています。
世界的な山岳エリアとなった今だからこそ、日本の山岳文化を未来へ残すことが求められています。





五十貫（188キロ）の花崗岩でできた風景指示盤を、大雪渓ルートで白馬岳山頂に担ぎ上げた



昭和16年10月、風景指示盤の落成式。 右から三人目が小宮のモデルとなった小宮山正（当時40歳）。

今、失われる危機

近年、山頂部では地盤の浸食が急速に進んでいます。
風景指示盤が設置されている岩盤にも亀裂が確認され、このままでは崩落とともに風景指示盤が失われる危険があります。
85年間守られてきた歴史を、私たちの世代で失うわけにはいきません。

文化財を守る最善の方法は、「現状維持」ではありません。安全な場所へ移設し、未来へ受け継ぐことです。
風景指示盤は、

白馬岳の象徴
山岳文化の象徴
登山文化の象徴

として、これからも山頂で登山者を迎え続けます。



崩落寸前の風景指示盤 （手前の絶壁が白馬村側、奥が富山県側）

事業費

総額　2,330万円　（消費税込み）

（内訳）

調査・設計費	200万円
解体・搬出費	600万円
輸送費（ヘリコプター等）	700万円
再設置工事費	400万円
銅盤補修費	330万円
管理・予備費	100万円

※現在地より約10メートル西側に移設予定



移設予定地

スケジュール

2026年　8月　協賛依頼活動開始
2026年11月　ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ開始
2027年　3月　資金確定
2027年　9月　移設工事



風景指示盤上部の鳥瞰図（銅製）

協賛企業様へのメリット

・WEB・冊子等で紹介
・報道発表資料への掲載
・完成記念式典へのご招待
・地域貢献企業としてPR
・地域・観光振興への参画



八方池からの不帰の嶮

協賛区分	協賛金額	特典（予定）	備考
プラチナパートナー	300万円	感謝状贈呈、完成記念式典ご招待（白馬岳山頂）、公式ホームページ掲載、記念プレート掲載（大）、移設プロジェクト紹介コーナーでの紹介、報道発表資料掲載、村公式SNSでご紹介	
ゴールドパートナー	100万円	感謝状贈呈、完成記念式典ご招待（白馬岳山頂）、公式ホームページ掲載、記念プレート掲載（中）、移設プロジェクト紹介コーナーでの紹介、報道発表資料掲載、村公式SNSでご紹介	

未来へ受け継ぐプロジェクト

85年前、先人たちは未来を信じて風景指示盤を設置しました。
白馬岳の歴史、文学、登山文化を未来へつなぐ象徴です。
今度は私たちが、その想いを次の100年へつないでいく番です。



白馬大雪渓と山岳スキーヤー

一緒に100年先へ

皆様のご支援が
白馬岳の歴史を未来へつなぎます。
ご協賛を心よりお願い申し上げます。

お問い合わせ：

399-9301
長野県北安曇郡白馬村北城7025
白馬村役場　観光課
課長：山岸　　担当：松澤
TEL：0261-85-0722
Email：kanko@vill.hakuba.lg.jp